

第1回旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会招致検討委員会

1 横浜市の現況

平成29年6月5日（月）

横浜市

Contents

1 横浜市の現況

(1) 横浜市の概要

(2) 横浜市が目指す都市

(3) 横浜市の取組

(1) 横浜市の概要

●横浜の歴史

■園芸植物の玄関口としての横浜港

1859年 横浜港開港

- ・日本の玄関口として、西洋の文化などが流入する窓口に
→横浜もののはじめ
- ・鎖国状態の日本の植物は海外の注目を集め、園芸植物は
横浜港の特徴的な交易品に成長
- ・外国との貿易を通じ、日本の経済・文化の玄関口としても発展



近代街路樹発祥の地
(馬車道)



日本最古の洋式公園
(山手公園)



新聞誕生の地
(日本初の邦字新聞)



鉄道創業の地
(横浜-新橋間)

(1) 横浜市の概要

●現在の横浜

政令指定都市のひとつ

面積 (2017.1.1)

435.29km²

人口 (2017.5.1)

373万3,807人

世帯数 (2017.5.1)

167万1,190世帯

外国人人口数 (2016.12.31)

86,596人

市内総生産 (26年度)

12兆3,418億円

City of
YOKOHAMA



日本最大人口の市
静岡県（都道府県10位）と同等

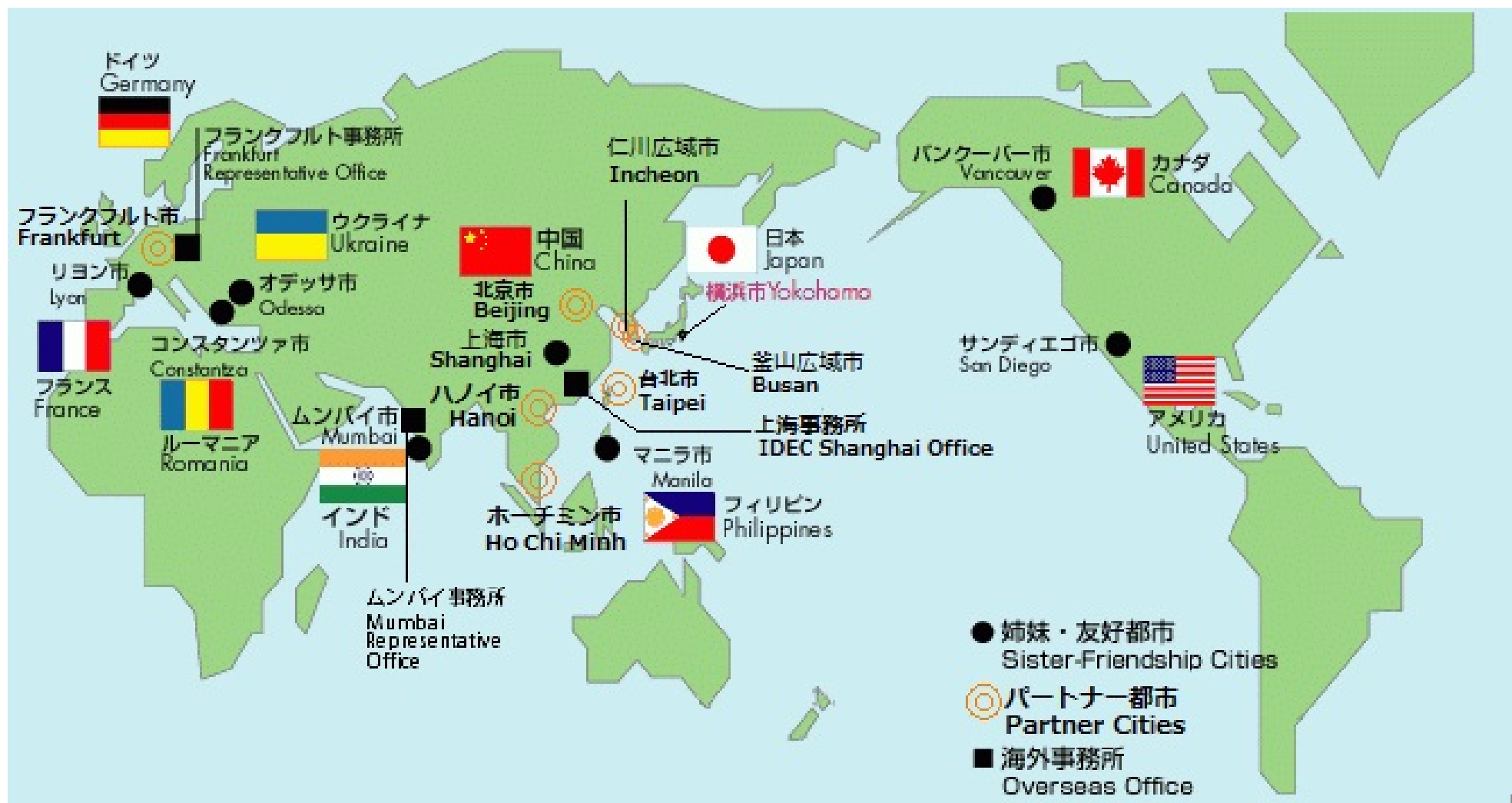
約160か国の国籍の外国人が暮らす
多様性豊かな街

ハンガリーやスロバキア
1国レベルに相当

(1) 横浜市の概要

●国際交流

姉妹・友好都市 8市 / パートナー都市 7市 / 海外事務所 3か所



(2) 横浜市が目指す都市

● 目指すべき姿

子育て世帯など若い世代をはじめ、人や企業を呼び込み、
未来を変えていくことに果敢に挑戦
必要なところにしっかりと投資！

戦略1

女性・子ども・
若者・シニアの
ポテンシャル
発揮と
健康づくりで
元気なまちへ

社会の担い手
となる
人を増やす

戦略3

世界の人々や
企業を惹きつけ、
誰もが
住みたい、
住み続けたいと
思えるまちへ

戦略2

活力ある経済が
豊かさを生み、
エネルギーが
効率よく
循環する
まちへ

企業が
活躍できる
環境をつくる

躍動できる
舞台としての
都市を
構築する

戦略4

横浜経済や
市民生活を支える
強靱な骨格と
防災・減災
機能を備える
まちへ

目指すべき姿

誰もが安心と希望を実感でき、
「人も企業も輝く横浜」

(3) 横浜市の実績

●環境未来都市 横浜

平成23年12月 環境問題や超高齢化への対応など、様々な社会的課題を解決する成功事例の創出・普及展開を目指す「環境未来都市」に国から選定

5分野における取組

- ・低炭素・省エネルギー
- ・水・自然環境
- ・超高齢化対応
- ・クリエイティビティ
- ・チャレンジ



環境

低炭素・省エネ社会の実現や横浜に残された豊かな水・緑を次世代へ。

・持続可能な住宅地
モデルプロジェクト



社会

子どもから高齢者まで
住み慣れた地域で、
「つながり」を実感でき、
生き生きと生活できるまちへ。

・みなとみらい2050
プロジェクト 等



経済

成長産業や文化芸術空間が
人・都市の交流を促し、
新たな文化・産業を
わき起こす好循環へ。



(3) 横浜市の実組

● 国際的なビジネス都市と緑あふれるニュータウン



■ みなとみらい21地区

- ・ 歴史やウォーターフロントの景観を生かした街並みの形成
- ・ 年間7,600万人が訪れ、10万2,000人が働く、首都圏を代表する街



■ 新横浜地区

- ・ 東海道新幹線の駅があり、商業・業務の集積地
- ・ 横浜国際総合競技場
(ラグビーワールドカップ2019™、東京2020オリンピック・パラリンピックサッカー競技会場)



■ 港北ニュータウン地区

- ・ 閑静な環境に美しい街並み
- ・ 高速道路のICもあり、道路環境も良好
- ・ 住宅地として、人気が高いエリア

(3) 横浜市の取組

● 観光MICE都市 横浜①

■ 国際会議の開催

- ・ 第50回アジア開発銀行年次総会
(H29.5/4~7)
- ・ 第4回、5回アフリカ開発会議
(H20, H25)
- ・ 日本APEC横浜 (H22) など

魅力的な複合コンベンション施設

パシフィコ横浜

施設別

開催件数

93件

国際会議参加者数

約25万人

国内
第1位

2015年 JNTO国際会議統計より



■ 新たなMICE拠点の整備

- ・ みなとみらい21地区20街区
(2020年完成予定)

■ 客船の受入機能の強化

- ・ 大さん橋国際客船ターミナル機能強化
- ・ 新港9号客船バースの整備



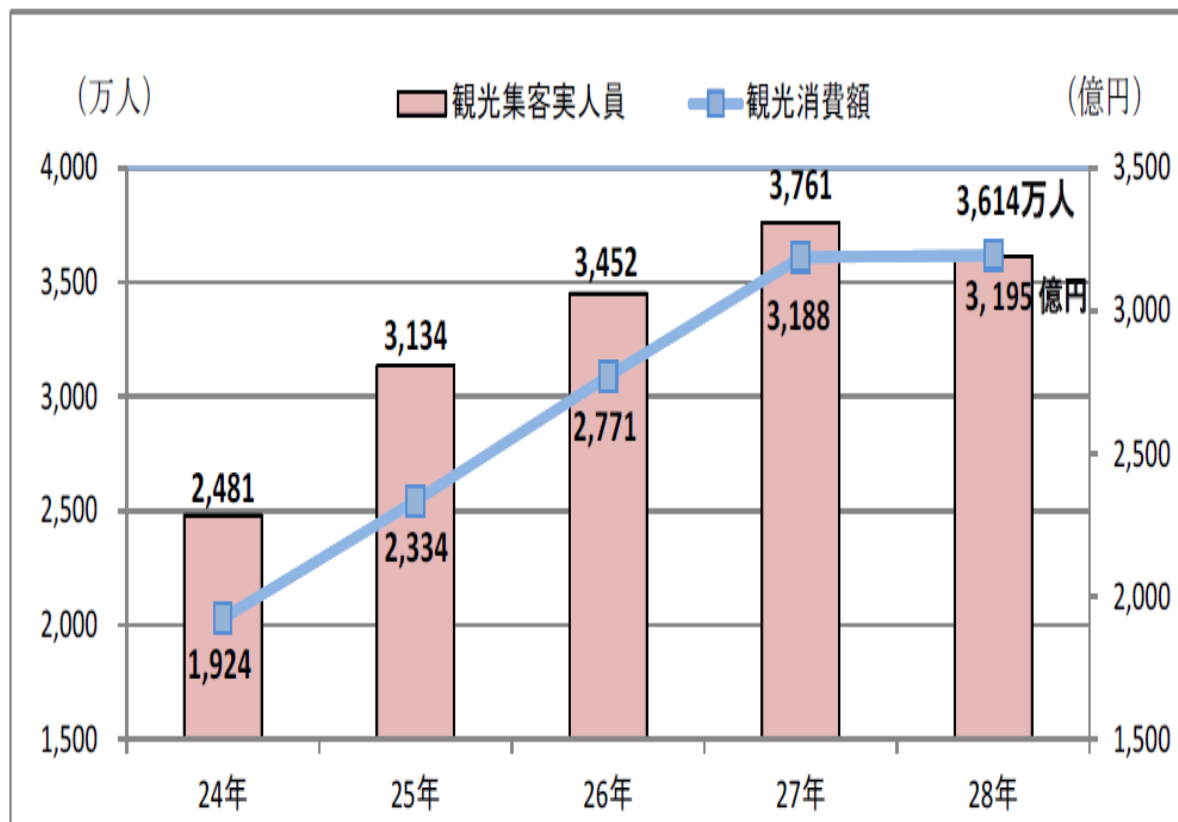
(3) 横浜市の取組

●観光MICE都市 横浜②

H28

- ・ 観光集客実人員 (3,614万人)
- ・ 観光消費額 (3,195億円)

「観光集客実人員」および「観光消費額」の推移 (H24~H28)



- ・ H28の訪日外国人観光客数
- ・ (延べ宿泊者数) は過去最高の72.0万人
- ・ →H23の**2.5倍**

外国人延べ宿泊者数
719,889人

(3) 横浜市の取組

●文化芸術創造都市 横浜

■横浜らしい芸術フェスティバルの開催

現代
アート

ヨコハマトリエンナーレ2014

来場者 : 21.5万人 (有料2会場)
経済波及効果 : 23億円マケル・ランディ «アート・ベン» 2010/2014
撮影:加藤健

音楽

横浜音祭り2016

来場者 : 100万人
経済波及効果 : 35億円

(C)oono ryusuke

ダンス

Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2015

来場者 : 100万人
経済波及効果 : 54億円

Photo:bozzo

(3) 横浜市の取組

●スポーツを通じた賑わいづくり

横浜マラソン2017

参加者 28,000人
2016大会観戦者数：65万人



世界トライアスロンシリーズ横浜大会

東アジア唯一の開催都市で、8回開催
2017大会観戦者：30.5万人



(C)Shinji KAWATA/JTU

ラグビーワールドカップ2019™ 東京2020オリンピック・パラリンピック

- 横浜国際総合競技場で、ラグビーワールドカップ2019™ と東京2020大会のサッカー競技を開催
- 横浜スタジアムで、東京2020大会の野球・ソフトボール競技を開催
- 英国オリンピック代表チームの事前キャンプ地に決定（横浜国際プール）



(C)YDB

(3) 横浜市取組

●都市インフラの強化

相鉄・JR直通線：平成31年度下期
相鉄・東急直通線：平成34年度下期 開業

高速鉄道3号線の延伸

神奈川東部方面線

旧上瀬谷通信施設

横浜環状北西線

横浜環状北線

東京2020オリンピック・
パラリンピックまでの開通目標



平成29年3月 開通



(3) 横浜市の実施

●花と緑の実施①

■緑豊かな横浜に向けて

都市化に伴い、
緑が急速に減少

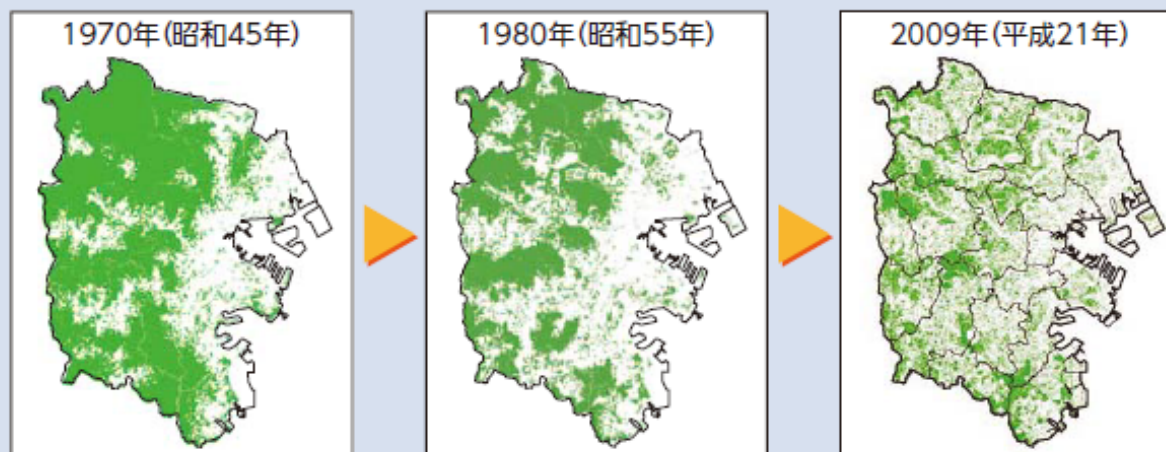


図. 横浜の緑の移り変わり

調査年度によって精度が異なるため、概ねの傾向を示したものです。

横浜みどりアップ計画の策定（平成21年度～）

「緑豊かな横浜を
次世代に」
引き継ぐ取組



取組の柱1

市民とともに次世代に
つなぐ森を育む



取組の柱2

市民が身近に農を
感じる場をつくる



取組の柱3

市民が実感できる
緑をつくる

(3) 横浜市の取組

●花と緑の取組②

■盛んな花き産業

栽培農家数 全国 **1** 位

■「日本フラワー&ガーデンショウ」の開催

日本最大級のパブリックショウ

2016年 横浜初開催

(会場：パシフィコ横浜)

「全国都市緑化よこはまフェア」と連携



(3) 横浜市の実施

●活力ある都市農業の展開

■横浜で地産地消

野菜や果物、花や植木、牛乳や卵など、様々な農畜産物を生産

「浜なし」「はまぽーく」など
たくさんの“横浜うまれ”



■横浜農場の展開

横浜の食や農が横浜ブランドとして市内で更に展開されるとともに、観光客や市外にも浸透するようプロモーションの取組を強化



横浜農場発の農畜産物の利用促進のために飲食店向けに作成したリーフレット



(3) 横浜市の取組

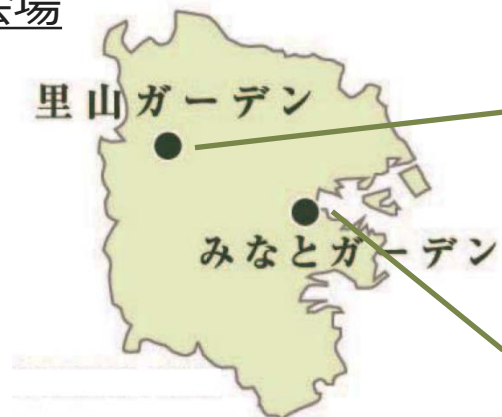
● 第33回全国都市緑化よこはまフェア (愛称：ガーデンネックレス横浜2017)

開催日：平成29年3月25日～6月4日 (72日間)

開催
理念『歴史と未来の横浜・花と緑の物語』をテーマに
美しい花と緑豊かなまち横浜の実現

©ITOON/GN2017

メイン会場



郊外部会場

(横浜動物の森公園植物公園予定地)

コンセプト『緑豊かな横浜』

都心臨海部会場

(山下公園、グランモール公園、港の見える丘公園など)

コンセプト『歴史と未来の横浜』

「美しい花と緑豊かなまち横浜」を発信



(3) 横浜市の取組

●第33回全国都市緑化よこはまフェア



都心
臨海部

横浜の新たな魅力
まちなかの街路・公園と
一体となった緑花

郊外部



(3) 横浜市取組

●第33回全国都市緑化よこはまフェア

横浜の花で彩る大花壇(里山ガーデン)

山下公園(みなとガーデン)

谷戸の菜の花畑(里山ガーデン)

花や緑あふれる横浜

新港中央広場(みなとガーデン)

第1回 旧上瀬谷通信施設における国際園芸博覧会招致検討委員会

2 旧上瀬谷通信施設の現況

平成29年6月5日（月）

横浜市

Contents

2 旧上瀬谷通信施設の現況

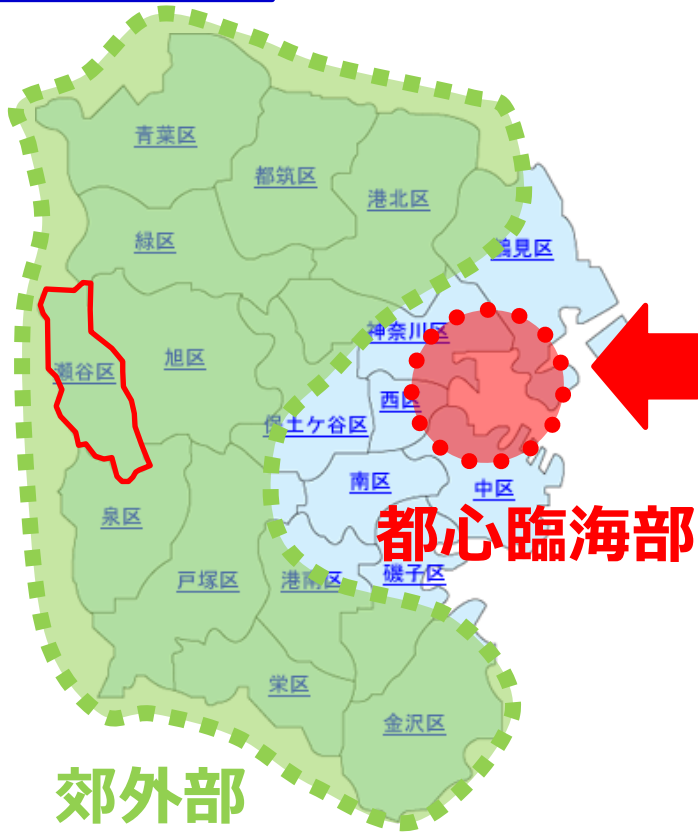
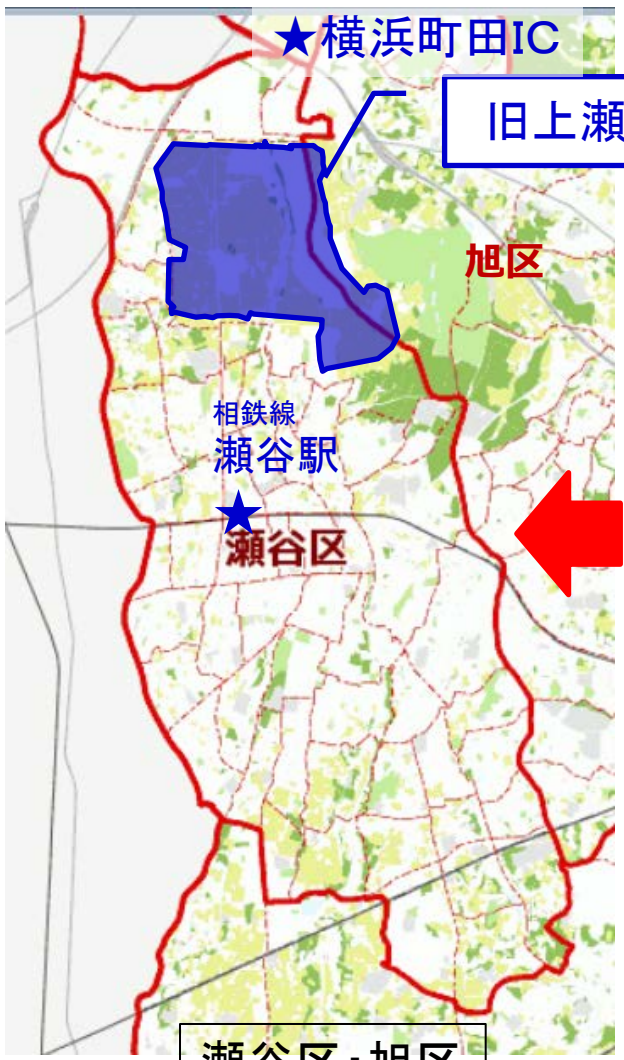
(1) 旧上瀬谷通信施設の概要

(2) 横浜・旧上瀬谷通信施設のポテンシャル

(3) 想定スケジュールについて

(1) 旧上瀬谷通信施設の概要

●旧上瀬谷通信施設の位置



瀬谷区・旭区

横浜市

広域

(1) 旧上瀬谷通信施設の概要

●瀬谷区と旧上瀬谷通信施設の歴史

明治から昭和初期(戦前)までの瀬谷区

養蚕業・製糸業が盛んなまちとして発展

- ・養蚕業の金融機関「瀬谷銀行」
- ・養蚕業にゆかりのある神社

昭和初期から現在の旧上瀬谷通信施設

昭和15年 戦中、旧日本海軍による強制買収

【農地・山林→資材集結所として倉庫施設を建設】

昭和20年 戦後、米軍による接收

昭和26年 再接収

昭和37年 電波障害防止地域が設定

【945haで4段階、建物高さ制限、ビニールハウスの金属や農機具の音も不可】

平成7年 電波障害防止地域が廃止

平成27年 上瀬谷通信施設 返還

→**接收により、発展に制約**



(1) 旧上瀬谷通信施設の概要

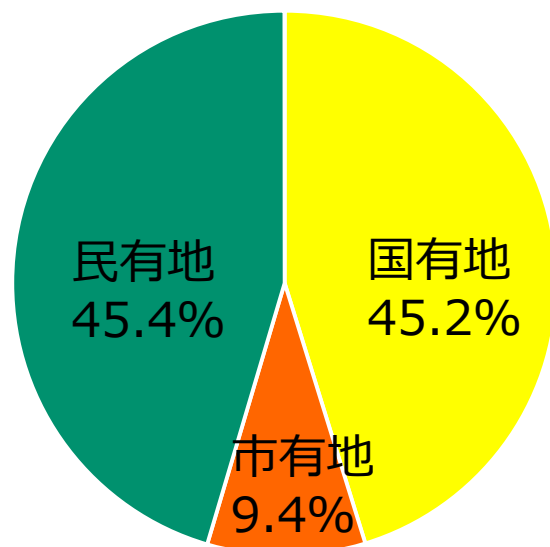
●基本事項

- 242haの首都圏最大級の広大で平坦な土地
- 土地利用が制限されていたため、耕作を中心とした土地利用
- 道路、上下水道などのインフラ整備の遅れ

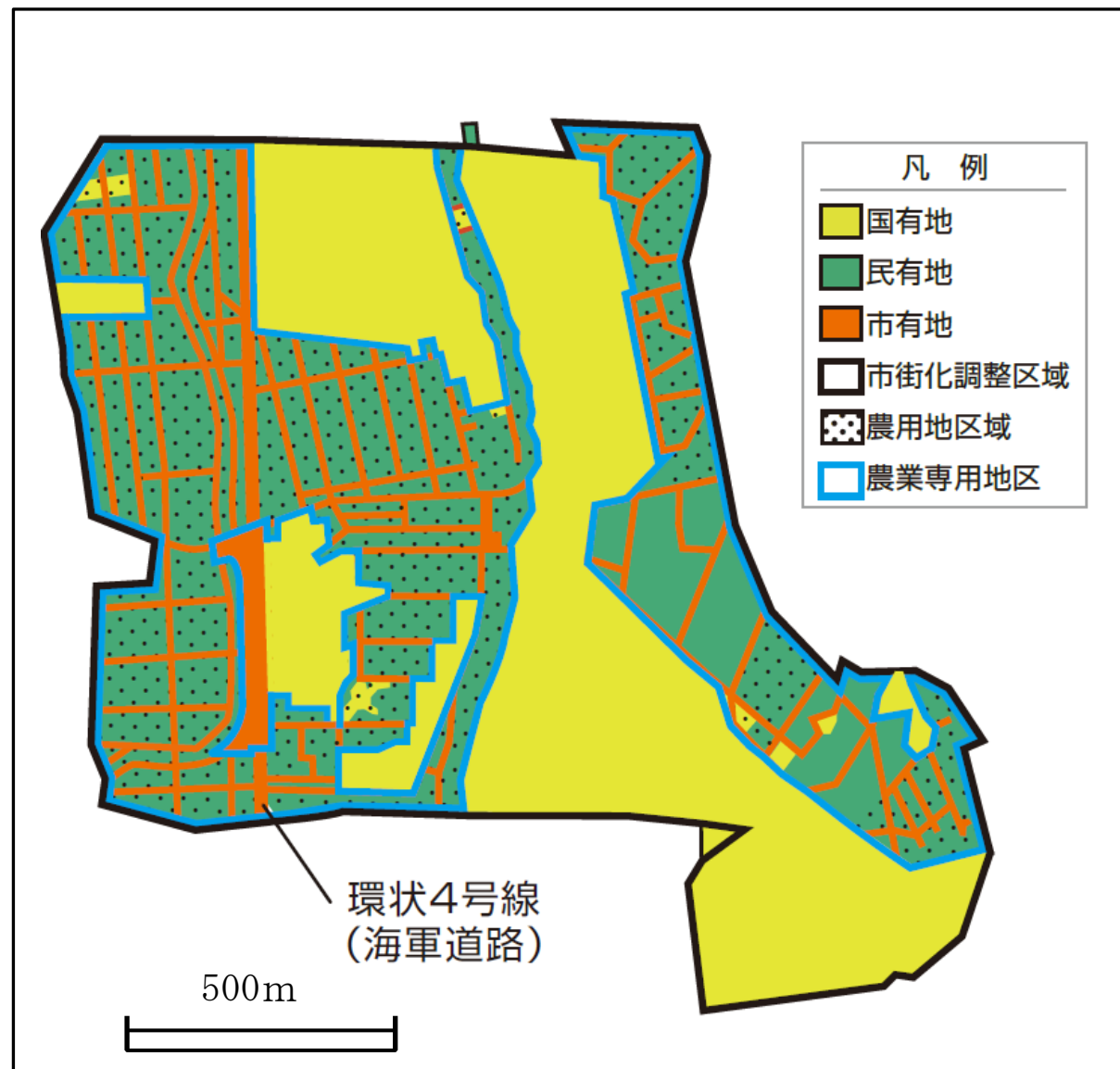


(1) 旧上瀬谷通信施設の概要

● 土地所有の状況



約250名の地権者の皆様
などと土地利用を検討中








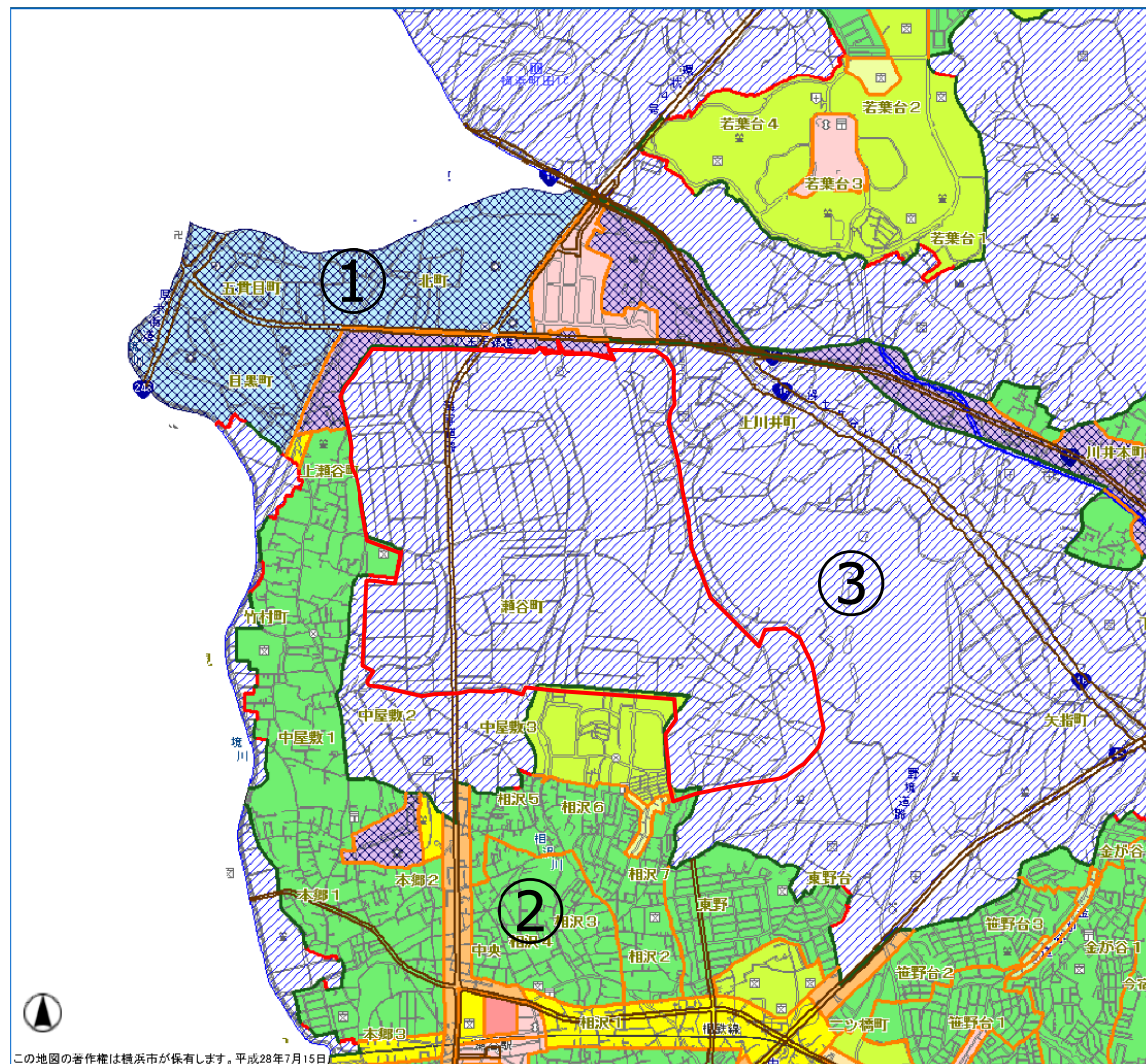
(1) 旧上瀬谷通信施設の概要

●土地規制の状況(用途地域)

- (ほぼ全域が市街化調整区域
(開発行為を原則行わない区域))
- 周辺状況
 - ①北側：卸流通業務の工業集積地
 - ②西側・南側：住宅地
 - ③東側：ゴルフ場、市民の森等

用途地域凡例(抜粋)

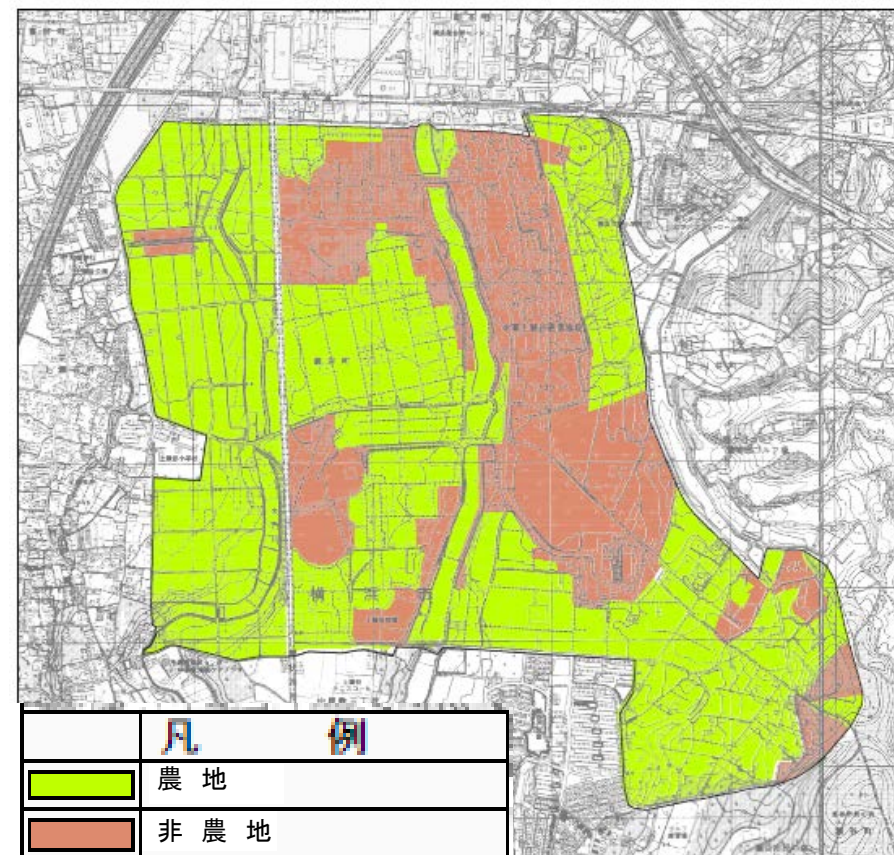
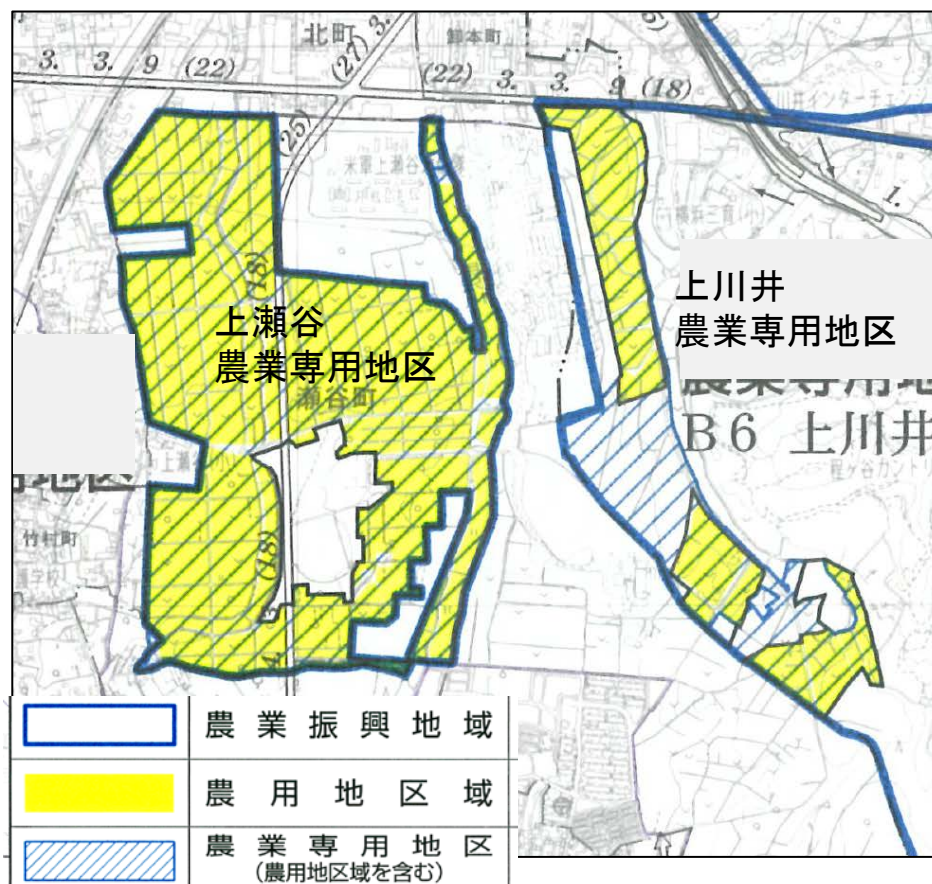
	市街化調整区域
	第1種低層住居専用地域
	第1種中高層住居専用地域
	準工業地域(第5種高度地区)
	工業地域(第5種高度地区)



(1) 旧上瀬谷通信施設の概要

● 土地規制の状況(農業)

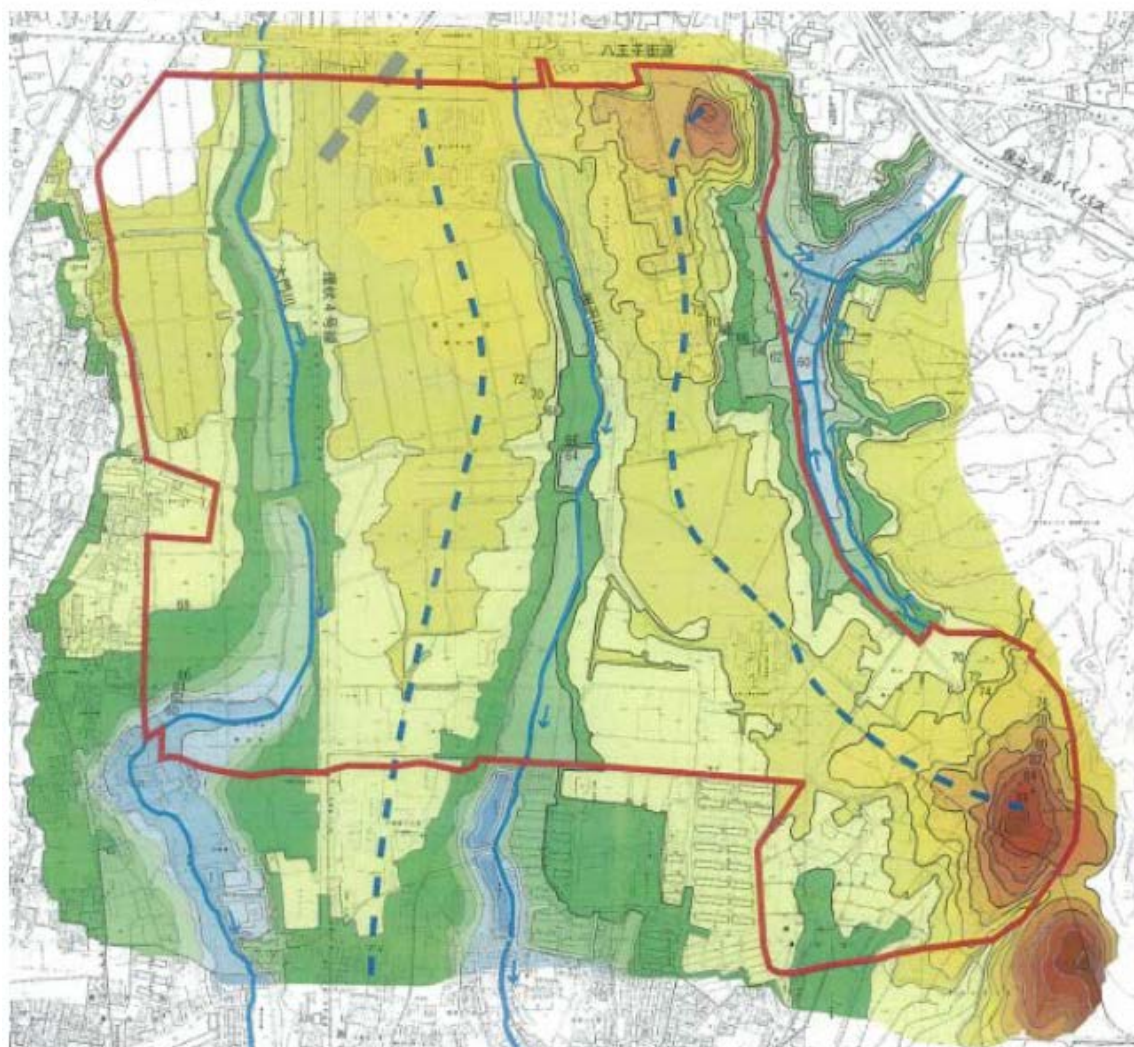
- 農業振興地域・農用地区域・農業専用地区の指定がある。
- 農地として利用され、それ以外の土地利用はできない。



※平成27年返還時点

(1) 旧上瀬谷通信施設の概要

● 土地の高低差の状況



凡例 (海拔、m)

	88.0
	86.0
	84.0
	82.0
	80.0
	78.0
	76.0
	74.0
	72.0
	70.0
	68.0
	66.0
	64.0
	62.0
	60.0
	58.0

(1) 旧上瀬谷通信施設の概要

●現況写真【大都市にして広大な農空間】

- 大面積の農地もあるが、小区画の利用もある。
- トウモロコシ・サツマイモ・キャベツなどの露地野菜が主である。
- ビニールハウス等の施設は、平成7年まで米軍による規制があったため、設置されていない。

畑地の広がり



斜面の畑地



小区画の畑地



道路沿いの果樹畑

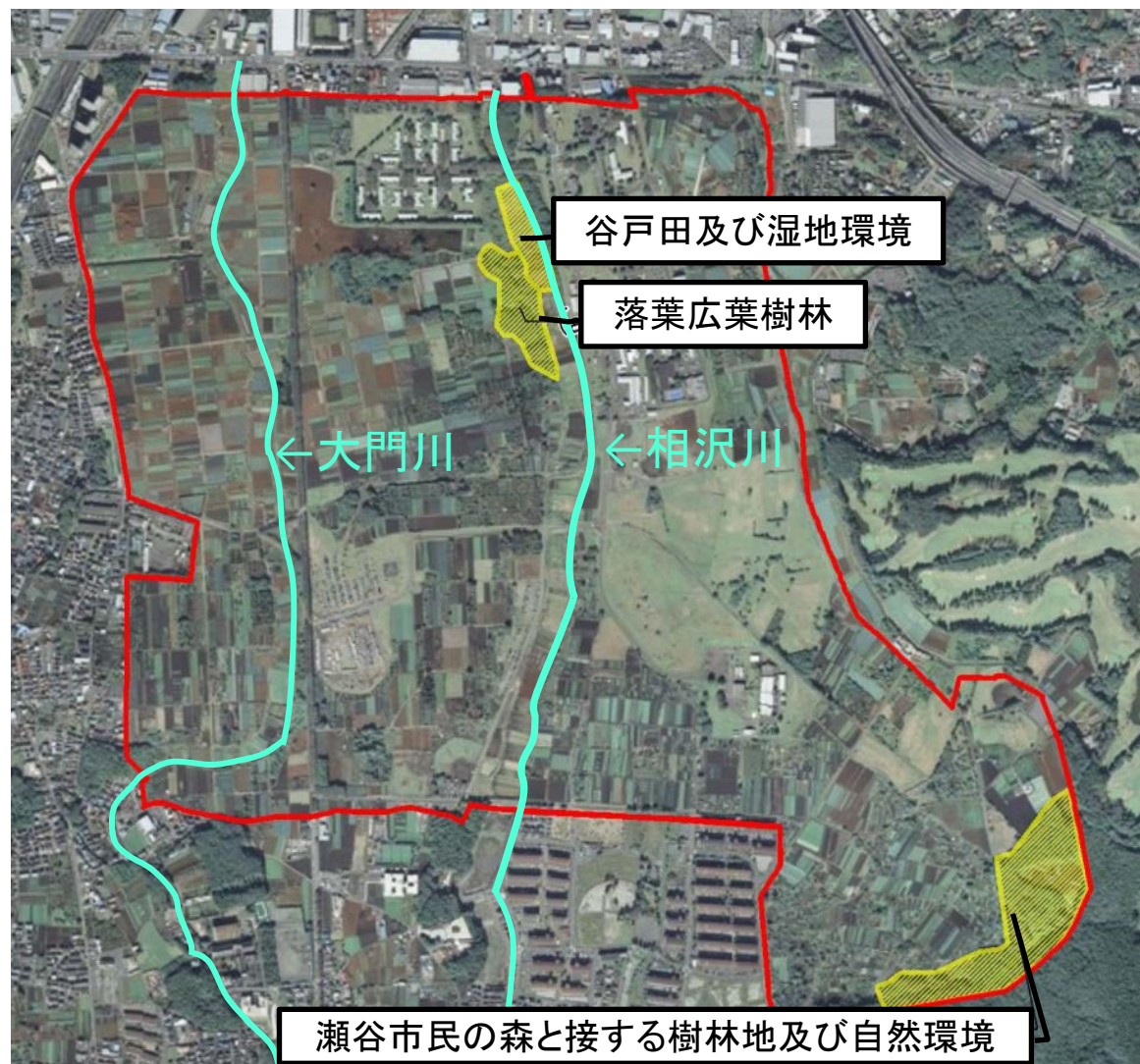


(1) 旧上瀬谷通信施設の概要

●現況写真【自然環境の多様性①】

- 相沢川沿いに水田と落葉広葉樹林のまとまりがある。
- 南東側の瀬谷市民の森に接する部分に林縁環境が残っている。

瀬谷市民の森と接する林縁部



(1) 旧上瀬谷通信施設の概要

●現況写真【自然環境の多様性②】

- 相沢川上流の水田は自家用消費が主だが、一部瀬谷産の米を販売している。
- 相沢川沿いには、コナラ・クヌギ等の落葉広葉樹林もみられる。
- 相沢川の大半はコンクリート三面張りの水路になっており、生物の生息には適していない。

相沢川沿いの水田



相沢川沿いの落葉広葉樹林



草地の広がり



コンクリート三面張りの相沢川



(1) 旧上瀬谷通信施設の概要

● 現況写真【国有地の暫定的な市民利用の状況】

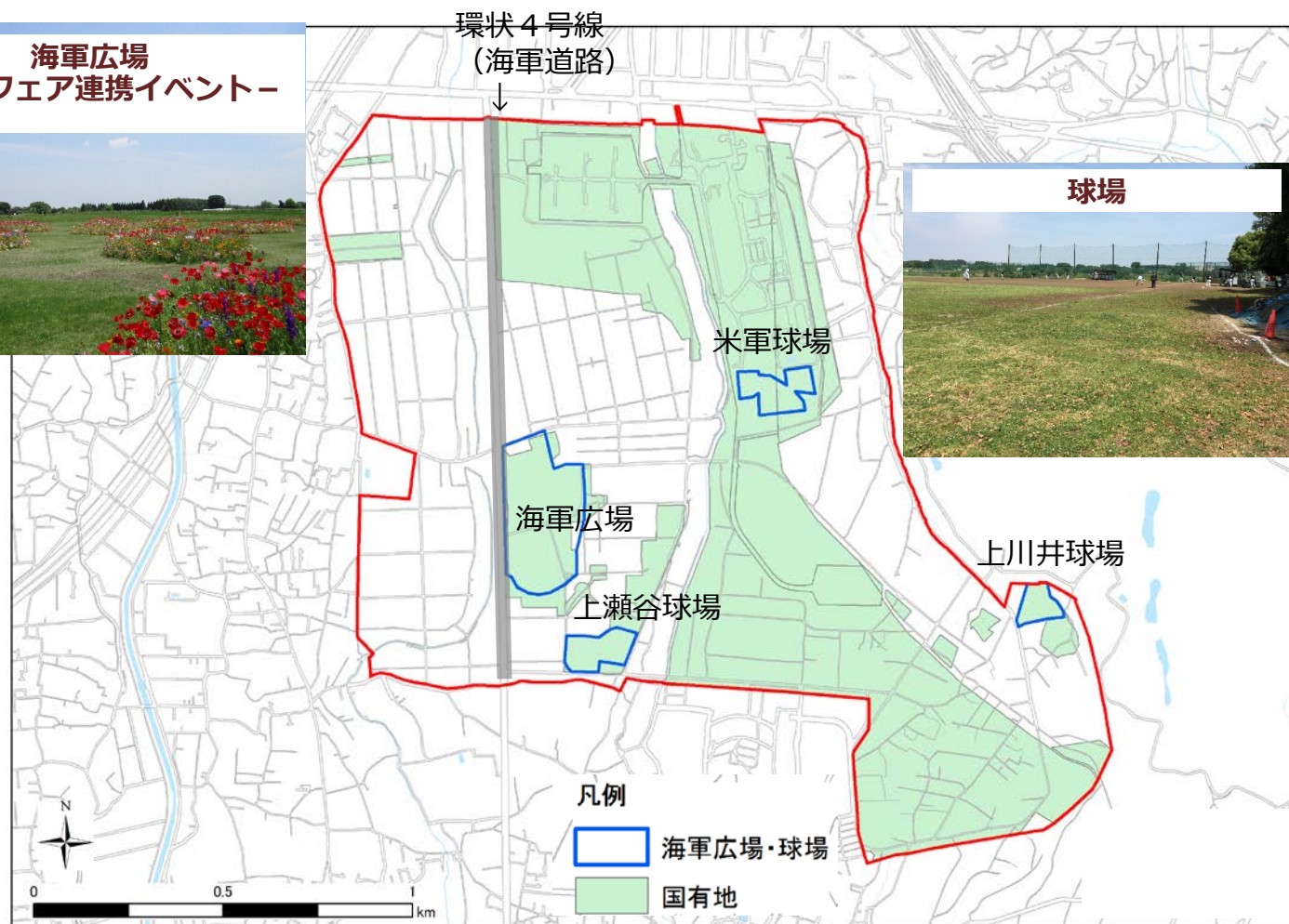
海軍広場
-瀬谷フェスティバル-



海軍広場
-緑化フェア連携イベント-



- 海軍広場は8 haの広大な敷地。区のイベント等により一時利用している。
- 3か所の球場は、市が国の承認を得て暫定利用している。



球場

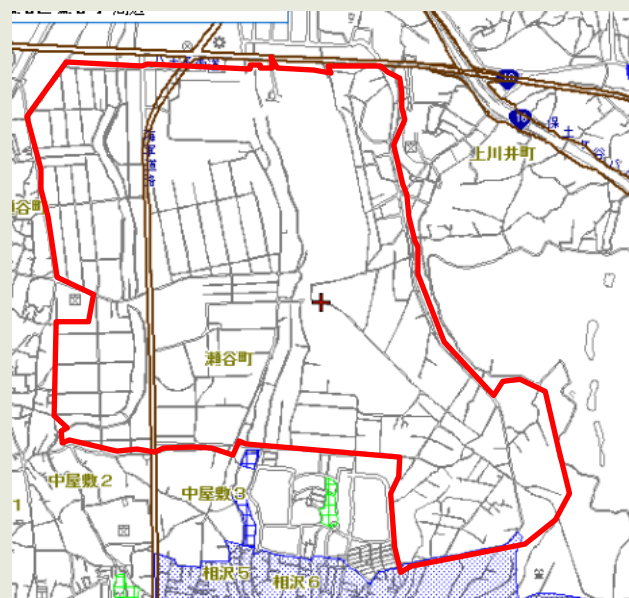


※現在、国有地での耕作など土地利用はされていない。

(1) 旧上瀬谷通信施設の概要

●現況写真【環状4号線(海軍道路)と農道の状況】

- エリア内唯一の都市計画道路
- 片側1車線
(幅員) 車道3m、歩道4m
植栽帯1.5m



- エリア内のその他の農道は、民有地の農地利用者が耕作のための通路として自ら整備・利用してきた。

車道 (片側1車線)



歩道 (自転車レーンあり)



エリア内農道は無舗装



海軍道路の桜並木と背景の丹沢山系



(1) 旧上瀬谷通信施設の概要

●土地利用のめざすもの

跡地利用指針(H18)による方向性

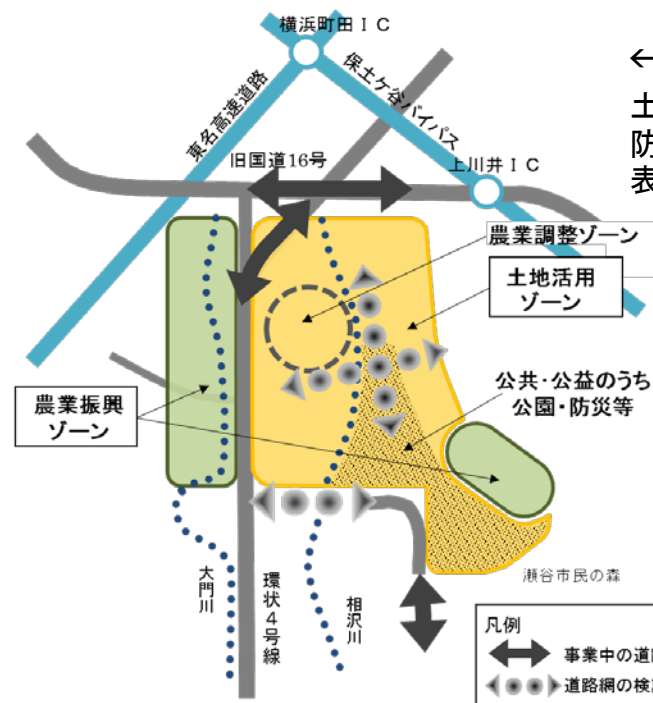
- ・持続的で魅力ある都市農業の振興
- ・「緑」を享受する首都圏郊外の自然レクリエーション空間
- ・広域の防災活動拠点・広域機能の立地
- ・交通便利性の向上に資する基盤整備

新たな視点による方向性

- ・本市を含む広域的な課題解決や多様な市民ニーズに対応できる市街地を形成

要素		意味
農業振興		活力ある都市農業の展開
土地活用	活力創造	産業振興、賑いや交流を促進 (主に民間が参入する施設を想定)
	公共・公益	本市を含む広域的課題や地域の課題を解決 (主に公共・公益的性質のある施設を想定)

- ・郊外部の再生に資する新たな活性化拠点を形成するため、**3つの要素**で土地利用の検討を進める。



←【跡地利用ゾーン(案)】

土地活用ゾーンのうち公園・防災等のおおよその位置を表示した例

※跡地利用ゾーン(案)は土地利用を決定するものではなく、今後、土地利用の検討を進める上での目安とするものです。

●計画地のスケール比較

敷地規模

瀬谷区の面積の約 **1/7**

計画地の大きさは約242ha。
これは瀬谷区面積の1/7に相当する。

◆横浜市スケール図-1

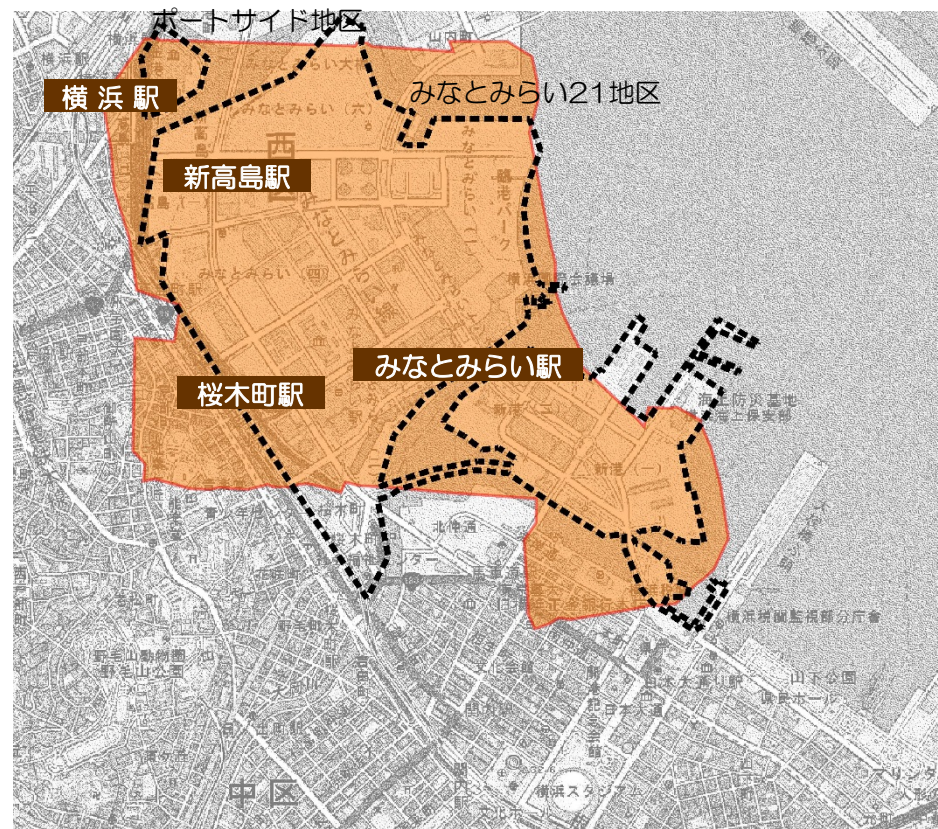


敷地規模比較

みなとみらい21地区の約 **1.3** 倍

横浜の中心市街地に当てはめると、みなとみらい地区
全域から大榎橋までを含めた広大な敷地となる。

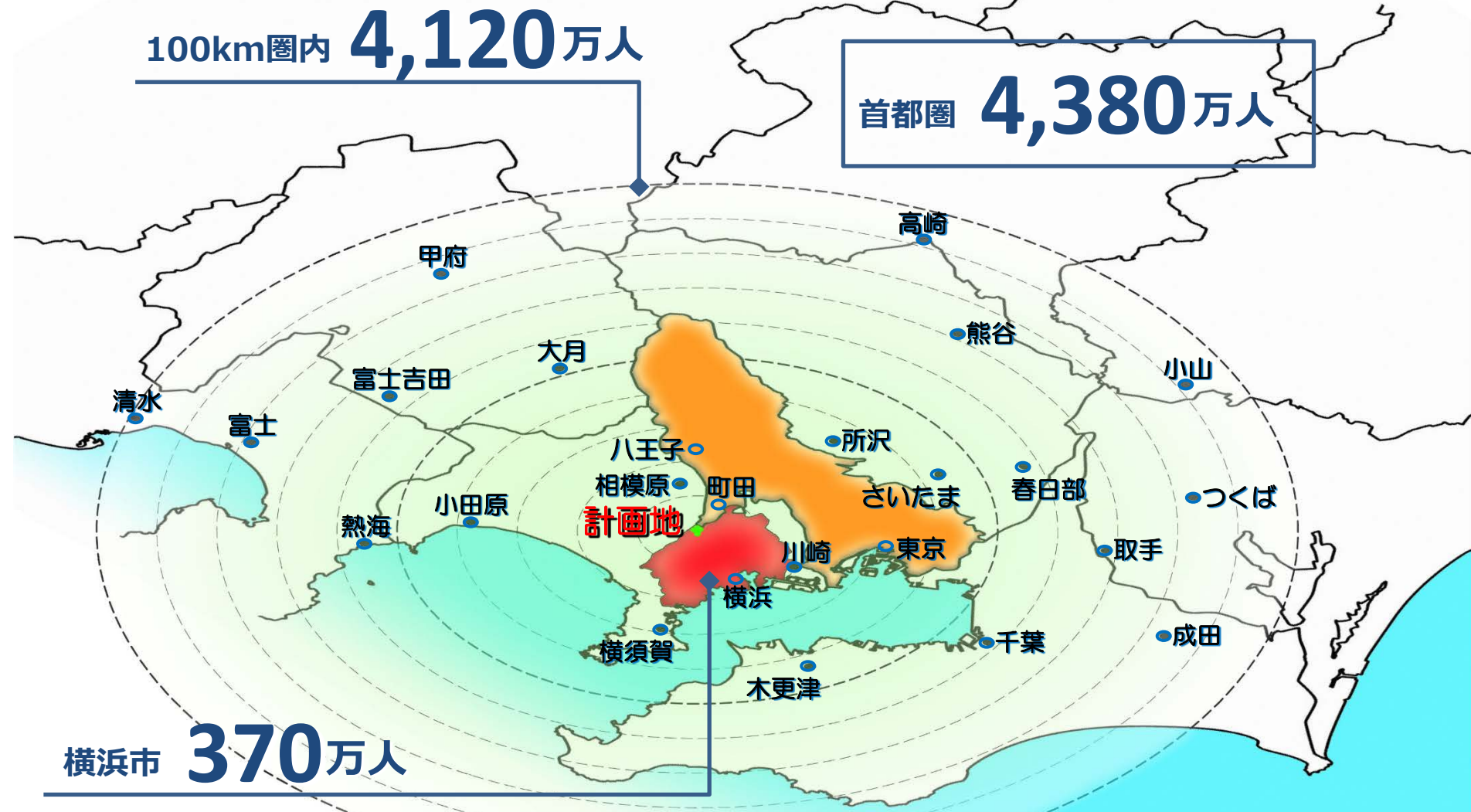
◆横浜市スケール図-2



(2) 横浜・旧上瀬谷通信施設のポテンシャル

第1回 国際園芸博覧会招致検討委員会

● 後背人口



(2) 横浜・旧上瀬谷通信施設のポテンシャル

● 交通アクセス

車の場合

横浜町田IC までの所要時間

東京ICから20km **15**分

羽田空港から35km **40**分

成田空港から105km **75**分

* 横浜環状道路の整備により、市都心部、東京からの車両アクセスが向上する

(参考) 電車の場合

相鉄線 瀬谷 駅 までの所要時間

横浜駅から **20**分

新幹線新横浜駅から **40**分

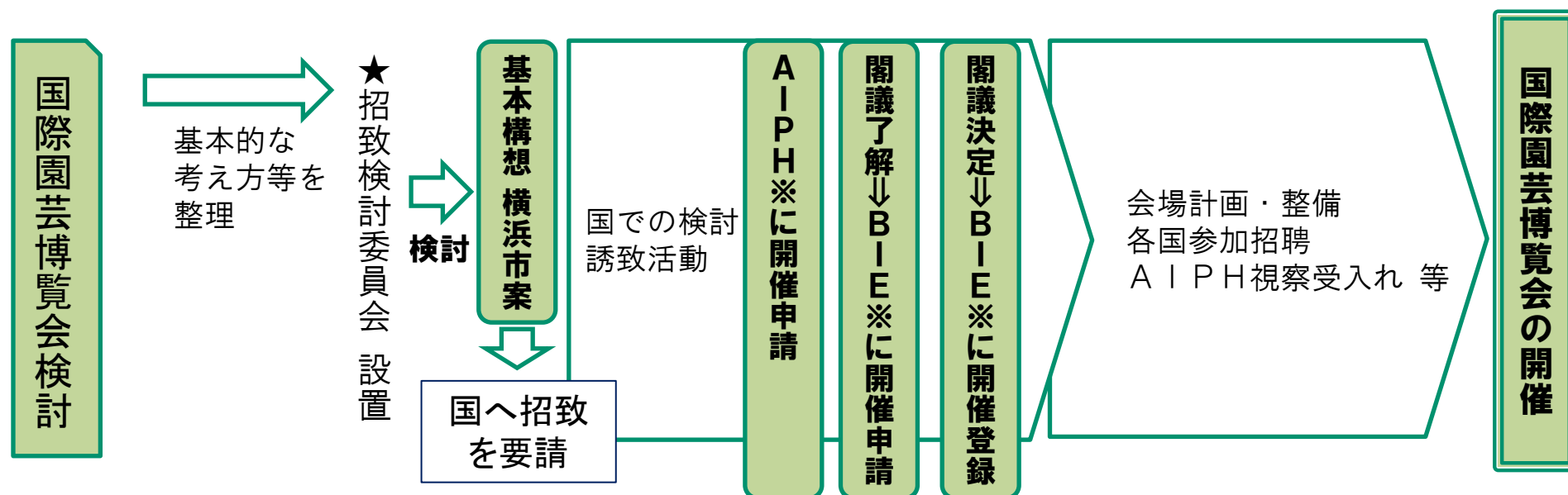
* 神奈川東部方面線の整備により、渋谷、横浜からのアクセスが向上する



(3) 想定スケジュールについて

●想定スケジュール(案)

年度	2015 (平27)	2016 (平28)	2017 (平29)	2018~2021 (平30~33)	2022~2025 (平34~37)	2026 (平38)
----	---------------	---------------	---------------	-----------------------	-----------------------	---------------



※AIPH…国際園芸家協会。国際園芸博覧会の認証機関。

※BIE…博覧会国際事務局。国際博覧会の認証機関。

第1回 国際園芸博覧会招致検討委員会

3 これまでの博覧会・検討の視点について

平成29年6月5日（月）

横浜市

Contents

3 これまでの博覧会と検討の視点について

(1) 博覧会の潮流

(2) 検討の視点

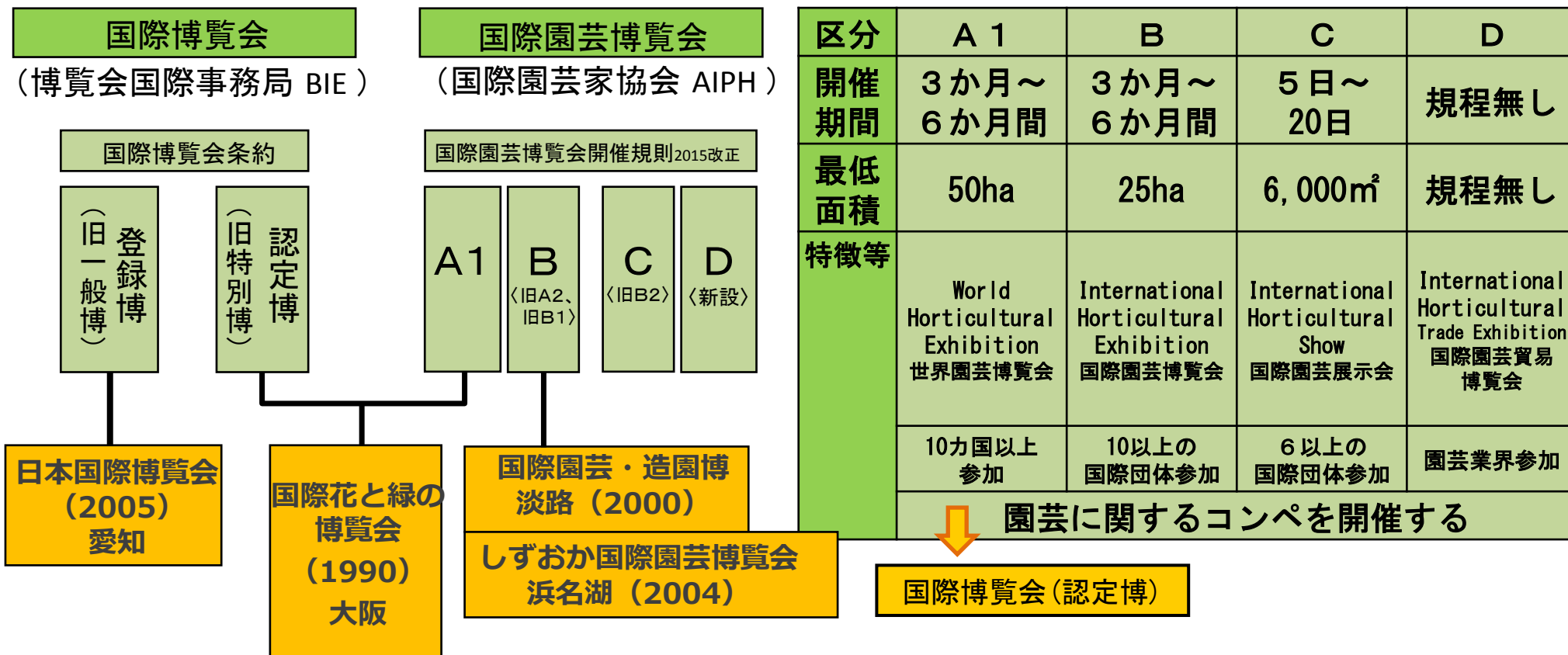
(1) 博覧会の潮流

◎ 国際博覧会の潮流

西暦	国際博（一般博）	国際博の類型	社会背景・時代潮流
1980年代 以前	<p>1851 ロンドン博 ～世界初の国際博覧会～</p> <p>1970 大阪博 【人類の進歩と調和】</p>	<p>産業博タイプ</p> <p>啓蒙型 新しい知識・価値の提示</p> <p>未来志向 科学による近未来の都市と暮らし</p> <p>展示・見学型 知識の享受、展示物の鑑賞が主</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 科学技術への期待と信頼 ・ 万博システム・リフトの価値の確立 ・ 経済的成長の期待が維持 ・ 開発による未来への期待 ・ 冷戦終結からポスト冷戦へ
1990年代	<p>1992 セビリア博 【発見の時代】</p> <p>2000 ハーバー博 【人・自然・技術】</p>		
2000年代	<p>2005 愛知博 【自然の叡智】</p>	<p>環境博タイプ</p> <p>課題解決型 社会的課題への対応の提案</p> <p>グローバル環境問題 地球環境課題への問題意識</p> <p>学習型 課題の発見・理解、活動を触発</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ グローバル化の急速な進展 ・ 地球環境問題の顕在化 ・ 万博の制度疲労と陳腐化 ・ 情報化・多様化の加速 ・ 国際的民主化・市民力の隆盛
2010年代	<p>2010 上海博 【より良い都市、より良い生活】</p> <p>2015 ミラノ博 【地球に食料を、生命にエネルギーを】</p>		

(1) 博覧会の潮流

◎ 国際博覧会と国際園芸博覧会の関係



(1) 博覧会の潮流

◎ 国内及び横浜での博覧会

西暦	国内開催の国際博	横浜での国内博	詳細
1960年代 以前		1909 開港五十周年記念祭	明治42年7/1記念式典
		1934 復興記念横浜大博覧会	昭和10年
		1949 日本貿易博覧会	昭和24年3/15～6/15
		1958 開港百年記念祭	昭和33年5/10～6/3
1970～ 1980年代	1970 大阪万博 【人類の進歩と調和】		
	1975 沖縄海洋博 【海-その望ましい未来】		
	1985 つくば科学博 【人間・居住・環境と科学技術】	1989 横浜博YES '89 【宇宙と子供たち】	平成元年3/25～10/1 1333万人入場36か国出展
1990年代	1990 大阪花博 【自然と人間の共生】		
2000年代	2005 愛知万博 【人類の叡智】	2009 開国博Y150 【横浜開港150周年記念】	平成21年4/28～9/27 MM地区、スーパリア周辺、他

(1) 博覧会の潮流

◎ 日本における国際園芸博覧会

西暦	国際園芸博	開催意義	社会背景・時代潮流
1980年代			
1990年代	<p>1990 大阪 国際花と緑の博覧会 【自然と人間の共生】</p>	<p>○花と緑と人間生活のかかわり、21世紀へ向けて潤いのある豊かな社会の創造をめざす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化伝統と多様な庭園、園芸観の遺産を踏まえ、21世紀の地球社会の平和と繁栄に貢献 	<ul style="list-style-type: none"> ・バブル経済の絶頂期 ・企業・民間活力の隆盛 ・生活の質向上へのニーズ ・花ある暮らしへの希求
2000年代	<p>2000 淡路 国際園芸・造園博 【人と自然のコミュニケーション】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な緑、人と自然 ・安全で快適な美しい街づくり ・参加・協力しあう心豊かな社会 ・園芸・造園産業の発展と振興 ・震災復興のモデル、公園島づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・大震災・事件からの復興の象徴 ・市民ボランティアの隆盛 ・美しく・豊かな社会への希求
	<p>2004 浜名湖 しずおか国際園芸博覧会 【花・緑・水～新たな暮らしの創造～】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な庭文化の創造 ・伝統園芸文化の保存継承 ・植物知識のさらなる向上と普及 	<ul style="list-style-type: none"> ・長引く経済の低迷 ・経済的豊かさから心の豊かさへの転換 ・多様な価値観への志向 ・花緑への愛着の高まり
2010年代			

(2) 検討の視点

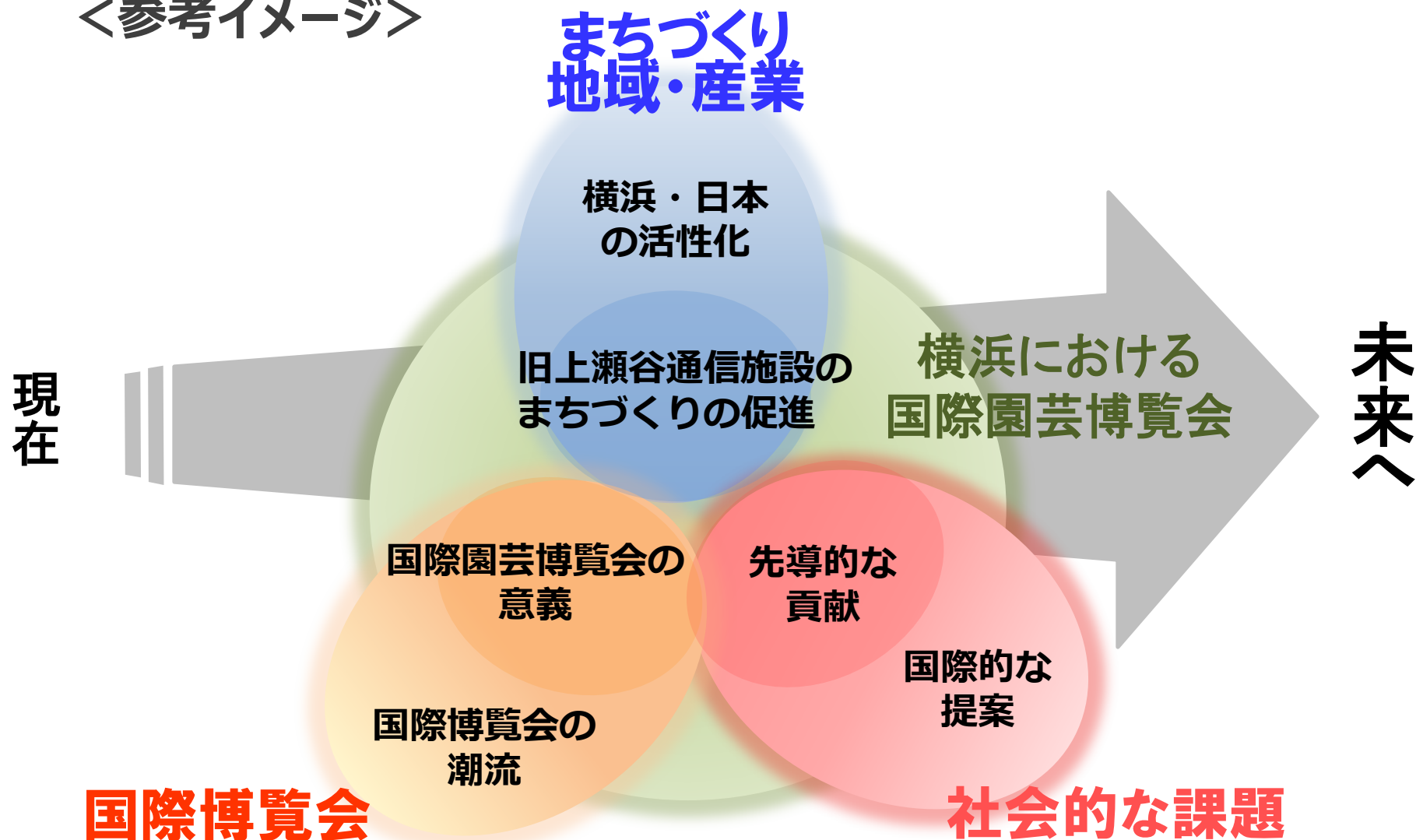
● 国際博覧会の潮流とこれから求められるもの

西暦	国際博（一般博）	国際博（特別博）	国際園芸博
1970年代 ～ 1980年代	1970年 大阪博 【人類の進歩と調和】	1975年 沖縄国際海洋博 【海—その望ましい未来】	1973年 ウィーン世界園芸博
		1985年 筑波国際科学技術博 【人間・居住・環境と科学技術】	1979年 西ドイツガールテンショウ
		1986年 バンクーバー国際交通博 【動く世界、ふれあう世界】	1984年 フランスポール国際庭園博
		1988年 ブリスベン国際レジャー博 【技術時代のレジャー】	
1990年代 ～ 2000年代	1992年 セリア博 【発見の時代】	1990年 大阪国際花と緑博 【自然と人間との共生】	1992年 ハーグ・グスタフ国際園芸博
	2000年 ハーバー博 【人・自然・技術】	1992年 ジェバ国際船と海博 【コロンブス：船と海】	1999年 昆明世界園芸博 【人と自然21世紀に向けて】
	2005年 愛知博 【自然の叡智】	1993年 大田国際博 【発展のための新しい道への挑戦】	2002年 ハルミニア国際園芸博 【自然の美にふれる】
2010年代	2010年 上海博 【より良い都市、より良い生活】	1998年 リボン国際博 【海洋—未来への遺産】	2003年 ロストック IGA 【人・自然・水】
	2011年 5ミナ博 【地球に食料を、生命にエネルギーを】	2008年 サウジアラビア国際博 【水と持続可能な開発】	2006年 フィンランド国際園芸博 【博愛の心への賛美】
		2012年 麗水国際博 【生きている海と沿岸】	2012年 フィンランド国際園芸博 【自然と調和する人生】
2020年代	2017年 アブダビ国際博 【未来のエネルギー】		2016年 アンタルヤ国際園芸博 【花と子供達】
	2020年 ドバイ博 【心をつなぎ、未来を創る】		2019年 北京国際園芸博 【グリーン生活、美しい故郷】
	2025年 大阪博(招致中) 【いのち輝く未来社会のデザイン】		2022年 カタール22 アルヌレ 【グリーンシティの醸成】

2026年 横浜国際園芸博覧会

(2) 検討の視点

- これからの博覧会とは
〈参考イメージ〉



(2) 検討の視点

● 国際園芸博覧会に求められるもの

(AIPH規則より (2015年10月21日開催の総会にて承認))

◎ 成功する博覧会とは一

- ・ **世界各国の最高の知識と最先端の技術を推進**し、かつ、**文化および園芸の多様性を広める** 目的で、各国から優れた園芸術を結集させる
- ・ **健康および社会福祉の向上、環境の増進、ならびに経済の強化**を目的とした植物の一層の利用を増進する
- ・ **園芸の社会的必要性、および園芸がその環境とを結びつける上で果たす役割**について明確に示す
- ・ 専門的な園芸分野において **生産性および国際的な協力関係を促進**する

◎国際園芸博覧会招致検討委員会 平成29年度想定スケジュール(案)

※検討項目については、審議状況に応じて変更になります。

	国際園芸博覧会 基本構想 主な検討項目						その他
	① 開催意義	② 基本事項等	③ 事業展開	④ 会場・行催事	⑤ 関連事業	⑥ 効果・事業費	
第1回 6月5日	・開催にあたっての基本的な視点						
第2回 7月10日	・開催意義 ・テーマ整理	・開催場所 ・開催期間	・事業コンセプト	・要件整理 (会場・行催事)			○現地視察
第3回 8月予定	・開催理念 ・テーマ		・気運醸成 ・広報活動	・会場構成 ・行催事構成	・関連基盤整備		
第4回 9月予定	・開催理念 ・テーマ	・想定入場者数 ・面積規模	・理念継承 ・跡地利用	・会場計画 (配置、主要施設) ・行催事計画	・輸送・宿泊計画 ・関連施設計画	・波及効果 ・概算事業費	
第5回 10月予定	・国際園芸博覧会の基本構想素案として各項目を取りまとめ						○市民等からの 意見募集について
	市民等からの意見を募集						
第6回	・国際園芸博覧会の基本構想横浜市案として各項目を取りまとめ						○意見募集結果 ○国への招致要 請に向けて